

9月の予定

★9月23日～9月24日
アドベンチャー9月活動
「秋を満喫しよう」
(於：秋田県仙北市思い出の瀧分校)

あのリーダーは今...

8月3日、YMCAの学童の子が太鼓で参加するという話を聞き、仕事が終わってからさんさ祭りを見に行ったら、学生時代一緒にリーダーをやっていた永田千晴さん(はんにゃリーダー)がミス太鼓のたすきを身にまとい、優雅に太鼓をたたいていました。
宮古出身のリーダーで、現在は紫波で保育士をしているそうです。数年ぶりの再会だったので、一人はしゃいでしまいました。やはり仲間と会えるのは、嬉しいですね。
はんにゃリーダーは、来月の巻頭言を書いてくれるのでご期待下さい。

盛岡YMCA スタッフ小川



7月サントー「アイスを作ろう！」

7月10日(日)にYMCA前瀧センターにて「ひやひやアイス作り」が行われました。参加者は子供が15人、リーダーが18人の計33人と今回もたくさんの方が参加してくれました。

まず、くじで3つのグループに分かれてアイス作りを始めました。今回は、材料を入れたボールを氷で冷やしながら、ひたすらかき混ぜるといふ、「ぐるぐるアイス作り」という方法で作りました。みんな腕がだるくなるまで一生懸命かき混ぜてくれました。疲れたら、グループのお友達やリーダーと交代しながら協力する様子も見ることができました。当日は気温が高かったこともあり、ちゃんと固まるか心配していましたが、すべてのグループで無事アイスを作成することができました。暑い日にみんなで食べるアイスの味はまた格別でした☆



こぼれ種⑩

「キャンプの力=自然の力」

日本基督教団内丸教会牧師
(元日本YMCA同盟 主事) 中原真澄

夏休み、今年は震災の影響で早く終わった学校が多かったようです。それでも子ども達にとっては、学校や家庭といった日常の場面から離れて大きく成長する機会でもあります。YMCAの夏といえば、<キャンプ!>の一言でしょう。

だいぶ前になりますが、「生きる力」=前向きに生きていく意欲や努力、工夫をどの程度、身に備えているか・・・を調べた結果を見たことがあります。2種類の体験の有無が大きく影響していることが分かったそうです。その一つが自然体験でした。例えば日の出の瞬間を自分の目で見たことがあるかどうか(私の子ども時代は当たり前だった体験が、今の子どもではごく少数!)もふくめ、自然に触れた体験の有無や程度が、生きる力に影響しているという結果がハッキリと出ていたのです(もう一つについては、またの機会に・・・)。

YMCAで子ども達をキャンプに連れていくと、ほんの数日でしかないのに、子どもがグングンと変わっていくをよく目撃しました。YMCAの場合は、自然体験に止まらず、グループでの活動や研修と体験を積んだカウンセリング・リーダーの存在も大きいのですが、やはり自然の中での生活でなければあり得ない成長だったことは確かです。日の出の前に起き出して、静かな湖の辺り、虫が飛び、魚が動き、鳥が目覚める・・・そんな微かな音を自分の心臓の音と重ねながら聞いていると、自分もこの大きな自然の中で生かされ、繋がっている一つのいのちなんだ・・・誰に言われなくても、体と心に沁みこんでくるのを感じます。

こうした自然の中で成長するには、せめて3泊以上のキャンプであって欲しい・・・常々、そう感じています。是非、こうした自然体験を積んでいって欲しいと、心から願います。

「天は神の栄光を物語り、大空は御手の業を示す。昼は昼に語り伝え、夜は夜に知識を送る。話すことも、語ることもなく、声は聞こえなくても、その響きは全地に、その言葉は世界の果てに向かう」(詩第19篇)

～表紙より～



「夏のキャンプは開催できないんじゃない?」5月頃、こんな話がスタッフの間では囁かれていた。震災の影響で大学の授業がずれ込み、ほとんどのリーダーがキャンプに参加できなくなっていた。そんな中、盛岡YMCAの窮地を救うべくはるばるやってきたのが大阪YMCAのこの4人組。左から若葉リーダー、チョコリーダー、チロルリーダー、ホックリーダー。盛岡駅に迎えに行った時、遠くから見てすぐにYMCAのリーダーだとわかった。優しい穏やかな表情、なんとなく温かい雰囲気。真剣に子ども達に向き合っているとそんなオーラを放し始めるのかな?キャンプが始まると、歌、ゲーム、様々な場面でその実力を遺憾なく発揮してくれた。盛岡に滞在した期間は、10日間、平均睡眠時間は、4時間ぐらいではなかっただろうか?そんなハードな中、持ち前の笑いセンスで周囲に元気を与えてくれていた。恐るべし、大阪Y、そして有難う、難波のリーダー達。(濱)

MORIOKA YMCA NEWS

8月号 キャンプで夏を満喫!!



盛岡YMCAに来て

石室綾子(関西大学商学部商学科4年 大阪東YMCA チロルリーダー)

「盛岡のYMCAのキャンプ参加してみやん?」6月中旬、私が所属するYMCAの所長から突然今回のキャンプの話があり、私は迷わずこちらのキャンプの参加を決めました。

今回、大阪YMCAからは私を含め4人のリーダーが参加しました。それぞれ所属しているYMCAが違うので、ほぼ初対面の状態で新大阪駅を出発しました。

期待と不安を胸に、到着した盛岡YMCAは、キャンプの組み立て方やプログラムが予想をはるかに上回るくらい大阪YMCAと違っていたため、最初は戸惑いました。しかし、話し合いを重ねるうちに、盛岡も大阪もどちらも子ども達に対する想いや願いという根底の部分に大きな違いがないことに気づきました。

そうして臨んだ山のキャンプと湖畔キャンプ。どちらのキャンプも子ども達とリーダーのイキイキとした笑顔がとても印象的でした。いつの間にか大阪弁で話す子が続出し、ノリツッコミをマスターしたいと練習に励む子がいた

り、食文化の違いに驚いたり、お互いが多い話題に出会えたキャンプになったのではないかと感じています。

普段と違う生活を経験し、新しい仲間と共に過ごすキャンプは、何か新しい発見があり、自分自身を見つめなおす機会が増える大切な時間だと思います。

今回、盛岡YMCAに来させていただいて、子どもたちやリーダー、スタッフ、一人ひとりとの出会いの中で、いろいろなことを感じたり、考えたり、本当に数えきれないほど多くの学びがありました。出会いは人を成長させてくれるものだと私は改めて感じました。これからはたくさんの人にとってYMCAがキラキラと輝ける成長の場であることを願っています。

今回のプロジェクトに参加させていただき、所長の濱塚さん始め、スタッフの皆さまに紙面をお借りして感謝とお礼を申し上げます。本当にありがとうございます。また会える日を楽しみにしています。

盛岡YMCAの使命

私たち、盛岡YMCAは、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、子ども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. 子どもたちの個性を大切に、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。